

故 武藤守一教授略歴・主要著作目録

略 歴

明治四三年五月一日岐阜で生れる

昭和一一年 三月 立命館大学法経学部経済学科卒業

昭和一一年 四月 立命館大学研究生となる

昭和一六年 四月 立命館大学講師

昭和一七年 四月 立命館大学助教授

昭和一八年一〇月 立命館大学教授

昭和二四年 四月 学生部長

昭和三二年 四月 欧州印度に留学

昭和三四年 四月 学部長・大学院研究科長（経済学部）

昭和三五年 八月 教学部長

昭和三九年 四月 図書館長

昭和四三年 四月 学部長・大学院研究科長（経済学部）

故武藤守一教授略歴・主要著作目録

一九三（八二七）

昭和四四年 四月 立命館総長事務取扱

昭和四五年 二月 立命館総長

昭和四五年九月二〇日 脳溢血で倒れ、安井病院に入院

九月三〇日 安井病院にて死去

著 書

経 済 政 策	社会文化学会	昭和二年
経 済 特 殊 問 題	有 斐 閣	昭和二年
金 融 論	三 和 書 房	昭和二年
経 済 政 策 序 講	三 和 書 房	昭和二年
経 済 政 策 学 の 基 本 問 題	三 和 書 房	昭和二年
貨 幣 理 論 と 貨 幣 政 策	三 和 書 房	昭和二年
外 国 為 替 論	三 和 書 房	昭和二年
経 済 政 策 学 総 論	三 和 書 房	昭和二年
貨 幣 ・ 銀 行 券 ・ 紙 幣	三 和 書 房	昭和二年
危 機 経 済 の 打 開	雄 渾 社	昭和二年
経 済 政 策 論	三 和 書 房	昭和二年

戦後の国家的銀行と半国家的銀行

雄 渾 社

昭和三二年

戦後における国家的金融機関の動向と特質

関 書 房

昭和三三年

—宮田・藤田編「日本経済政策の展開」の一篇

東風は西風を圧する — 欧亜遊学記 —

自 費 出 版

昭和三三年

経 済 政 策 論

法 律 文 化 社

昭和三四年

貨幣・銀行券および紙幣（金融論）

法 律 文 化 社

昭和四一年

新しい政治経済学

大 月 書 房

昭和四三年

現 代 資 本 主 義

法 律 文 化 社

昭和四四年

訳 書

彭迪先 著「貨幣信用論大綱」訳
何高箸 著「貨幣信用論大綱」訳

三 和 書 房

昭和三二年

人民大学「資本主義国家の貨幣流通と信用」翻訳

三 和 書 房

昭和三四年

許滌新監修

「中国資本主義商工業の社会主義改造」訳

三 和 書 房

昭和四〇年

学 術 論 文

リカードウの価値論と貨幣との矛盾

法 と 経 済

昭和一二・二・二・二二

中国農村金融の概況

銀 行 論 叢

昭和一六・四・五・六

故武藤守一教授略歴・主要著作目録

一九五（八二九）

軍票の性格とその流通

銀行論叢

昭和一七・二・四

アダム・スミスの貨幣理論

立命館大学論叢

昭和一七・四

貨幣の価値尺度たる機能について

立命館大学論叢

昭和一八・一一

「資本論」第一章の商品について

法と経済

昭和二二・四

貿易再開とインフレーション

法と経済

昭和二二・一〇

インフレーションを克服するものと推進するもの

法律文化社

昭和二三・六

新国際通貨金融制度の理論と実現

法律文化社

昭和二三・九

日本ファシズムの経済的基礎

時論

昭和二四・九

終戦直後のインフレーションの分析

法と経済

昭和二四・九

インフレーションをめぐる資本と労働

立命館創立五〇周年記念論文集

昭和二五・一〇

資本主義貨幣と社会主義貨幣

立命館経済学一一一

昭和二七・二

財閥解体政策の基礎と変遷

立命館経済学二一一

昭和二八・二

新民主主義革命と新民主主義経済

立命館大学人文科学研究所紀要一

昭和二八・四

マルクスに対立する貨幣理論批判

立命館経済学三一

昭和二九・二

金融引締政策批判

実業評論

昭和二九・四

日本信用体系における国家的銀行資本の地位と役割

立命館経済学三一三

昭和二九・六

日本輸出入銀行

立命館経済学三一六

昭和二九・一二

日本長期信用銀行

新中国の人民券の本質と機能について

新民主主義社会における金利の性格

沈志遠「政治経済学大綱」訳

狄超日「中国の過渡期における社会主義経済の
発展と経済法則」訳

中国の過渡期における基本的経済法則について

莊鴻湘「中国の過渡期における客観的経済
法則についての若干の問題」訳

朝鮮民主主義人民共和国の通貨金融

中国の銀行業と貨幣改革の発展状況

中国人民大学「資本主義国家の貨幣流通信用」訳

木田直重著「日本銀行の機能と政策」(紹介)

政 策 と 実 践

池田経済成長政策の矛盾

管大同「中国における資本主義商工業の
社会主義改造」

敗戦直後における通貨金融政策の独占資本的性格

インフレーションの諸形態と諸特徴

資本自由化と中小企業

立命館経済学三一七

立命館経済学四一三

立命館経済学四一六

立命館経済学五一

立命館経済学五一四

立命館経済学五一五

立命館経済学五一六

立命館経済学六一六

立命館経済学七一三

立命館経済学八一

立命館経済学八一四

経済セミナー

立命館経済学一三一五

立命館経済学一三一六

立命館経済学一四一三

立命館経済学一五一三

立命館経済学一五一五・六

昭和三〇・二

昭和三〇・八

昭和三一・二

昭和三一・四

昭和三一・一〇

昭和三一・一二

昭和三一・二

昭和三三・二

昭和三三・八

昭和三四・四

昭和三四・一〇

昭和三五・四

昭和三九・一二

昭和四〇・二

昭和四〇・八

昭和四一・八

昭和四二・二